

ワークショップ 34	
タイトル	知らないままでいいですか? 「終活」 「相続」 「エンディングノート」 ～旅立ちを手伝うためのテーマとして～
日時	6月14日(日) 13:30-15:00
企画責任者	大橋 博樹 (公募企画)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>終末期ケアや看取りの経験はあっても、看取りの後に何が起こるのか? 何が大切なのか? 社会的な問題について、なぜか我々の周囲では取り上げられません。しかし、相続やお墓の問題など、看取りの後から、家族の労力は大きく、家族問題に発展することもあります。このWSでは、本学会の顧問税理士を講師に招き、看取りの後に起こる諸問題や、今話題の「終活」「エンディングノート」「相続税大改正」について解説します。医学的にどう旅立ちたいか? (終末期の医療の方針) と相続や葬儀の方法、家族や親しい人へのメッセージなどの「終活」は、本来一緒に考えるべきで、私達プライマリ・ケアを担う医師やスタッフも必ず知っておくべきものです。WSでは実際のエンディングノートも使って、患者さんやその家族に、終末期の医療的な問いかけとともに、その前後で人生の大きな決断とメッセージになる終活の重要性を伝えられることを目標にします。</p> <p>【概要】</p> <p>1. 事例を紹介し、看取りの後の諸問題を紹介 2. グループごとに看取り前後の諸問題や対処法などをディスカッション 3. 税理士(講師杉江)による、「終活」「エンディングノート」などの解説 4. 医療における、終末期の問いかけと終活をどう現場で融合していくか、グループでディスカッション 5. 各々の意見を共有し、次へアクションを考える</p>	